

食の安心・安全を支える研究紹介

農林総合技術センターでは、重点研究項目の中で、県民の食と環境の安心・安全を提供する技術確立などに取り組み、地産・地消の推進等を進めています。

おいしい・ヘルシー「本県オリジナル地どり」誕生！ ～ 雄系種鶏『やまぐち黒鶏（くろどり）』を開発 ～

農林総合技術センターでは、ブロイラーよりも美味で、しかも適度な歯ごたえを持った本県オリジナル地どりの開発に平成11年から取り組んできました。

本県固有の在来鶏「黒柏（くろかしわ）」をもとに、その発育性や産卵性等の欠点を補うため、こうした能力の高い3品種を交配し、できた四元交雑鶏を改良固定化し、地どりの元となる雄系種鶏（父親）「やまぐち黒鶏（くろどり）」を作出しました。

この「やまぐち黒鶏」の雄と在来鶏の雌を交配し、生まれたひなを飼育したものが「地どり」です。ブロイラーに比べて「うま味」と「抗酸化性」の成分が多く含まれていることが特長です。

今後は、「やまぐち黒鶏」の県内種鶏場への安定供給と合わせ、本県オリジナル地どりで国産飼料主体とした低コスト生産技術の開発等を進めます。

※地どりとは；在来鶏由来血液割合が50%以上でかつ飼育方法の条件をクリアしたもの



雄系種鶏「やまぐち黒鶏」（左；♂）



「やまぐち黒鶏」を元にした地どりの肉

<主な内容>

◇食の安心・安全を支える研究紹介

『おいしい・ヘルシー「本県オリジナル地どり」誕生！』

～畜産技術部・食品加工研究室～

『化学農薬に頼らないイチゴの生産技術を開発中』～農業技術部 資源循環研究室～

『県産飼料用米で、安心・安全な畜産物供給を目指します！！』

～畜産技術部 放牧環境研究室～

『竹林の再生とタケノコの生産・活用に向けた取り組み』～林業技術部 林業研究室～

◇トピック紹介

『児童や学生が主役となる食育・花育活動』

～農業研修部(農業大学校)～

『「犬猿の仲」を利用してサルの侵入を防ぎます』～経営技術研究室～

『集落営農の法人化に向け「集落営農法人のすすめ」を作成』

～経営技術研究室・農業技術部 技術指導室～

『「プチソレイユ」がベスト・フラワーを受賞』～農業技術部 園芸作物研究室～

化学農薬に頼らないイチゴの生産技術を開発中

～ 安心・安全な農産物供給を支える循環型農業生産に関する取組 ～

安心・安全な農産物に対する、消費者の意識が高まっており、また、生産者からは化学農薬に頼らない生産技術の開発が望まれています。

このため、農業技術部では、本県の重要な施設野菜であるイチゴにおいて、主要病害の一つ「うどんこ病」に強い本県オリジナル品種「山口ST9号（愛称：きららベリー）」を利用した生産技術を開発しています。

この品種に、病害虫を防ぐ上で重要なポイントである育苗時の管理技術（雨よけ、底面給水など）と害虫の天敵（生物資材）を組み合わせると、化学農薬の使用を慣行の半分に減らせることが実証できました。

今後は、生産者に使っていただくうえで、ポイントとなるより簡便な「天敵の管理方法等」について、技術開発を進めます。



イチゴうどんこ病に強い本県オリジナル品種
「山口ST9号（愛称：きららベリー）」



ハダニの天敵、ミヤコカブリダニ

県産飼料用米で、安心・安全な畜産物供給を目指します！！

～ 飼料用米の栽培と給与の取組み ～

畜産技術部では、輸入穀物に代わる安心・安全で栄養価の高い県産飼料の自給を実現するため、多収米を活用した家畜飼料の利用技術について取り組んでいます。

今年度は、他県等で実績のある多収性の飼料用米専用品種の栽培適性を確認するとともに、その玄米を飼料として肥育豚と採卵鶏に給与し、肉・卵について試食による評価を行いました。

試食会では、「卵黄が自然な色合いで良い」などの評価を始め、取組みに対する多くの期待や励ましをいただきました。

来年度から、安心・安全な畜産物供給を目指し、関係機関や農家の方々と連携し、飼料の栽培から生産された畜産物の評価までの一貫した試験研究に取り組めます。



肥育豚への給与試験



肉・卵の試食会の様子

竹林の再生とタケノコの生産・活用に向けた取り組み ～当センター開発「皮付き水煮タケノコ」の原料供給体制の整備を進めます～

本県の竹林面積は全国3位ですが、各地域で放置竹林の拡大が問題になっています。

このため、林業技術部では、竹林の再生と竹林資源の有効活用に向けて食品加工研究室と連携し、付加価値の高いオリジナル加工品「皮付き水煮タケノコ」を開発しました。

このたび、県内の加工場において製品化の目処が立ちましたので、農林事務所と連携し、下関市、美祢市、周防大島町などで、生産技術講習会など原料の供給体制整備に向けた取り組みを進めています。

今後とも、竹林の再生と農林家の所得向上に向け、技術の普及・支援を積極的に進めていきます。



竹林整備のポイントを説明



残す竹に印をつけます

タケノコ生産技術講習会（周防大島町）

児童や学生が主役となる食育・花育活動

～ 農業研修部（県立農業大学校）のトピック紹介 ～

農業研修部（農業大学校）では、地元の防府市立牟礼南小学校と連携し、児童の農業への関心を高めることを目的に、平成18年度から食育・花育活動を行っています。

今年度は、牟礼南小学校「ふるさと給食」でのタマネギやブドウ等農大農産物の紹介、農大でのイチゴやミカンの収穫作業体験に取り組みました。

また、花や緑に親しみ、育てる「花育活動」の一環として、「季節の花を食卓に！」と題した農大の季節の花展示（カーネーションやユリ等）、花壇づくり体験学習を行いました。

＊花育…花と緑に親しみ、育てることで、幼児・児童の情操面の向上を図る教育活動



ふるさと給食で農大ブドウ紹介



サルビアの植え方を学生が伝授！

試験研究のトピック

『「犬猿の仲」を利用してサル侵入を防ぎます』 ～経営技術研究室(鳥獣被害研究グループ)の取り組み～

農林総合技術センターでは、鳥獣や作物等の種類に応じた被害防止技術の研究を行っています。中国地方で初めての取り組みとして、山口市の仁保地区猿被害対策協議会が今年度から行っている「モンキードック」※の養成では、地元の犬の訓練を訓練士と連携して支援しています。

このたび、4頭がモンキードックとして養成されました。
今後は、実地訓練を支援するとともに、サル追払い効果の検証を行います。

※ 野生動物(サル)が集落に侵入するのを未然に防ぐ活動を行うイヌのこと。



養成訓練のようす

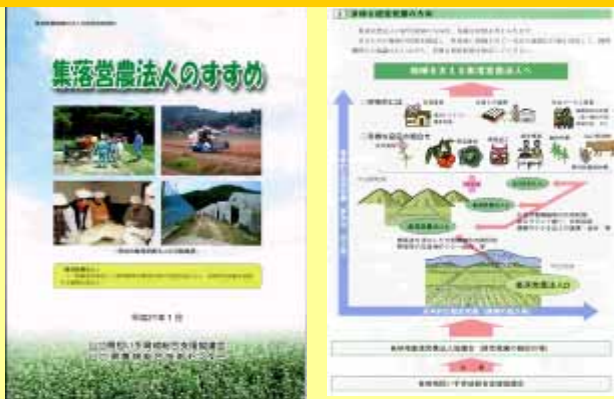


訓練の成果を地元に紹介

集落営農の法人化に向け 「集落営農法人のすすめ」を作成

農林総合技術センターでは、山口県担い手育成総合支援協議会(事務局:県農業経営課、県農業会議)と連携し、県内法人の経営調査や事例を基に法人化の普及啓発資料として「集落営農法人のすすめ」を作成しました。一層の法人化に向け、これを各地域の集落リーダー等に活用していただくこととしています。

※ 特定農業法人とは:農業生産法人のうち農業経営基盤強化促進法の規定に基づく特定農用地利用規程に位置づけられ、その地域の農用地を責任持って引き受ける法人



「プチソレイユ」が ベスト・フラワーを受賞

農林総合技術センターが育成した小輪タイプのユリ「プチソレイユ」が、「日本フラワー・オブ・ザ・イヤー2008」の切花部門で、「ベスト・フラワー(優秀賞)」を本県で初めて受賞しました。

この受賞を励みとして、今後も生産・販売活動の取り組みを進めます。



<山口県農林総合技術センター 企画情報室>

〒753-0214 山口市大内御堀1419 TEL(083)927-7011 FAX(083)927-3713

URL http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a172010/00000001/index.html

※ 皆さまからの御意見、御要望をお待ちしています。